

## 【4】指導参考事例集

### 指導参考事例①

#### テーマ：「薬物」を「乱用」するとどうなるの？

#### 1. 目標

- ◎「薬物」、「薬物乱用」とは何かを理解する。
- ◎薬物を乱用すると、自分や家族にどのような影響があるのか、また、1回の過ちの結果、自分の夢や希望をつかめなくなる恐れがあることを理解する。
- 実際に薬物の乱用を誘われたときにどのように断るか、自分の考えをもつ。

#### 2. ねらい

##### 1) 薬物とはなにか、また、薬物の種類を知る。

- ①「覚醒剤」、「麻薬」、「大麻」、「危険ドラッグ」、「シンナー等有機溶剤」等々があるが、いずれも依存性があり危険な薬物である。また医薬品である「向精神薬」も医師や薬剤師の指示どおりに服用せず、治療目的から外れた場合は乱用となる。
- ②特に「覚醒剤」は、摂取することにより幻覚を伴った激しい急性の錯乱状態や急死などを引き起こすことを理解する。
- ③SNS等においては、隠語（別名、俗称）を用いて取引されることが多く、「アイス、エス（覚醒剤）」、「チョコ、ヤサイ、クサ（大麻）」などと呼ばれることもある。

##### 2) 薬物乱用はたった1回でも「乱用」になることを知る。

- ①薬物の乱用は何回も使用することが乱用ではなく、「好奇心から」、「興味本位で」、「その場の雰囲気で」、たった1回使用しただけでも「乱用」である。

##### 3) 「依存」「フラッシュバック」について知る。

- ①薬物の最も恐ろしいところでもある、やめたくてもやめられなくなる性質（依存性）があることを理解する。

②乱用した後、一時的に乱用をやめられたとしても、「単にストレスを感じた」、「テレビで注射器を観た」等により、乱用した時と同じような幻覚や妄想が現れ、乱用の再開につながることもある。これを「フラッシュバック」（自然再燃）といい、一度薬物の影響を受けた脳は、薬物を使う前の状態に戻ることはなく、常に「フラッシュバック」の恐怖を背負って生きることになる。

4) 薬物乱用による「身体的影響」「精神的影響」「社会的影響」について話し合い、知識を深める。

●身体的影響及び精神的影響だけでなく、それまでの学校生活や家庭生活が送れなくなる等、社会的影響も非常に大きいことを理解する。

5) 実際に誘われた場合の「断り方」をひとつでも多く考える。課題を自分事ととらえて自身で考え、他者の意見を聞いて自分の考えを深める。

●「仲間外れにされるかも」「仲の良い友達だから断りづらい」と思うかもしれないが、心身に悪影響を及ぼすものを勧める人は、本当の仲間でも友達でもないことを理解する。

●「はっきり、きっぱり」断ると相手が諦める可能性が高くなる。

●言葉で断れない場合、少しでも早くその場から立ち去ることが重要。

6) 薬物乱用は1回でもダメ。1回の過ちで自分の夢や希望をつかめなくなる恐れがあることを理解する。

### 3. 進行表 (1時間版)

時間	活動	○:指導上の留意点 △:教員の作業・準備
4分	①本時の目標を確認する。	○目標を提示し、学習内容を確認させる。 △ワークシート・スライド資料の配付。
16分 (20分)	②スライド【全体講義形式】 薬物全体の基礎知識を得る。	○薬物の基礎的な知識を理解させる。 △スライドの提示・操作。
4分 (24分)	③課題1【グループワーク】 「薬物乱用」「薬物の種類」についてグループで話し合いながら、ワークシートに書き出す。	○グループで意見を交流させ、ワークシートに書き出させることで、考えや知識を深めさせる。
6分 (30分)	④課題2【グループワーク】 「薬物乱用の影響」について、グループで話し合いながら、ワークシートに書き出す。	○乱用した場合の様々な悪影響について考え、話し合わせる。特に、「身体的」「精神的」「社会的」の3つの観点で話し合わせ、記憶の定着につなげる。 ○「依存」「フラッシュバック」の恐ろしさについて考えさせる。
15分 (45分)	⑤課題3【グループワーク】 事例1)、事例2)ともに、実際に誘われた時の断り方について、グループで話し合う。 各グループが断り方を発表する。	○どんな断り方があるか、ひとつでも多くの方法を考えるよう促す。 ○「きっぱり断る」「その場から立ち去る」等、手段の異なる断り方が例示できるように、各グループから発表させる。
5分 (50分)	⑥まとめ + 課題3【個人学習】 事例1)、事例2)について、自分なりの考えを書き出す。	○本時のまとめとして、目標を再度確認し、薬物の乱用は1回でもダメと理解させた上で、自分なりの考えを書き出させる。 △ワークシートの回収。

進行表（2時間版の1時間目）

時間	活動	○:指導上の留意点 △:教員の作業・準備
10分	①本時の目標を確認する。	○目標を提示し、学習内容を確認させる。 △ワークシート・スライド資料の配付。
32分 (42分)	②スライド【全体講義形式】 薬物全体の基礎知識を得る。	○薬物の基礎的な知識を理解させる。 △スライドの提示・操作。
8分 (50分)	③本事例の「ねらい」について説明する。	○薬物乱用はたった1回でも乱用であること、フラッシュバック、身体的・精神的・社会的影響等について正しい知識を理解させる。

進行表（2時間版の2時間目）

時間	活動	○:指導上の留意点 △:教員の作業・準備
10分	④課題1【グループワーク】 ・「薬物乱用」「薬物の種類」について自分の意見をワークシートに書き出す。 ・グループで話し合い、ワークシートにグループの意見を書き出す。 ・いくつかのグループに発表してもらおう。	○まずは自ら考え、書き出すことで知識を定着させる。 ○次にグループで話し合い、正しい知識を深めさせる。 △話し合いが進まない場合は、再度関連するスライドを提示する。
15分 (25分)	⑤課題2【グループワーク】 ・「薬物乱用の影響」について自分の意見をワークシートに書き出す。 ・グループで話し合い、ワークシートにグループの意見を書き出す。 ・いくつかのグループに発表してもらおう。	○乱用した場合の様々な悪影響について考え、話し合わせる。特に、「身体的」「精神的」「社会的」の3つの観点で話し合わせ、記憶の定着につなげる。 ○「依存」「フラッシュバック」の恐ろしさについて考えさせる。

<p>20分 (45分)</p>	<p>⑥課題3【グループワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例1)の実際に誘われた時の断り方について、自分で考え、ワークシートに書き出す。</li> <li>・グループで話し合い、ワークシートにグループの断り方を書き出す。</li> <li>・事例2)についても同様。</li> <li>・いくつかのグループに断り方を発表してもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どんな断り方があるか、ひとつでも多くの方法を自分事として考えるよう促す。</li> <li>○「きっぱり断る」「その場から立ち去る」等、手段の異なる断り方が例示できるよう、各グループから発表させる。</li> </ul>
<p>5分 (50分)</p>	<p>⑦まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のまとめとして、「目標」を再度確認し、薬物の乱用は1回でもダメと理解させる。</li> <li>△ワークシートの回収。</li> </ul>